



鎌倉フェンシング協会のご紹介

Kamakura Fencing Association Description



競技の紹介

フェンシングは、西洋フランスから生まれたといわれています。

オリンピックでは、第一回アテネ1986年大会以来の伝統スポーツです

日本は、1952年ヘルシンキ大会より出場しています。

フェンシングの競技は三種目あり、2024年のパリオリンピックでは

三種目とも目覚ましい活躍で注目を集めました。

日本は今、世界の強豪国として世界に認められる存在になりました。

日本では競技人口は少ないものの、全国小学生大会やベテラン選手の

全日本選手権が開催され、海外の大会に日本代表として出場する選手も増えています。

当会でも、世界で日本を代表して戦う中高年が技を磨いています。

当会の沿革

昭和10年ころ日本にスポーツとしてのフェンシングが普及し始めた頃
鎌倉の地においても同好の志をもつ者が集い活動が開始されました。
その後、戦中戦後の中断を経て、昭和23年に神奈川地場の法政大学OB、
慶應大学OBらが集い、戦後の鎌倉クラブが誕生しました。この黎明期に
参加された進藤誠氏は1948年第一回全日本フェンシング選手権の優勝者であり
同じく慶應OGの鈴木君子氏は1955年全日本女子フルーレの優勝者でもあります。
この時点では、日本最強最古の社会人クラブであったと思われます。
昭和26年頃から立教大学中央大学OBも参加し中高生等20数名で後進の育成に努め、
昭和28年には、現鎌倉市スポーツ協会の前身である鎌倉市体育協会設立
と同時に加盟し、鎌倉フェンシング協会と改名し現在に至ります。
鎌倉の地には、設立当初より立教OBの三井山彦氏や慶應OBの澤藤巖氏が
地元湘南高校を初めとする若人の指導育成を行うと同時に、いざ鎌倉へ集う
ベテランクラスの中高年を中心に日本を代表し世界へ戦いを挑んできました。
現在でも幅広い年齢の会員層を持ち、熱気溢れる練習風景が続いている。



活動内容

- ・ 現在、活動は鎌倉武道館において行われています。土日中心の活動で、毎回20名前後の参加者をもって、練習可能時間を目一杯使って行われています。
参加者は中高年が中心ですが、ベテラン世界選手権を目指す人も多く生きがいとして続けていく方が多いと思われます。
- ・ パリ五輪の選手の活躍もあり、フェンシング熱が醒めないうちに当協会では鎌倉市スポーツ協会のご支援を得て初心者教室を別枠でとり、小学生から大人まで受け入れています。近年は親子で参加される方も増え、大変喜ばしい状況です。
- ・ 子供に単に習い事として学ばせるだけでなく、親子で社会人クラブのコミュニティーに参加していくことは親子の絆を強くし、子供の社会性に大きく影響を与えます。
生涯スポーツとして、目指すべきフレームではないかと思います。

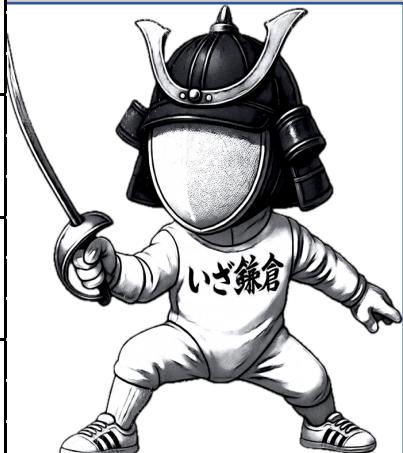
試合風景 EPEE



当協会の年間スケジュール（主なイベント）

当会の行事参加は全て任意で行われ基本自費参加です

冬季	稽古初め 新年会(有志) 世界ベテランフェンシング選手権予選会(1)
春季	アジアベテランフェンシング選手権 世界ベテランフェンシング選手権予選会(2) 世界ベテランフェンシング選手権予選会(3)
夏季	世界ベテランフェンシング選手権本戦 納涼慰労会(有志) 台東区フェンシングクラブ対抗戦
秋季	KFA親睦対抗戦 滝口杯全日本ベテランフェンシング選手権 忘年会(有志)



会 費

- ・入会金は徴求していません従って参加できない期間を休会にできます。
- ・毎月1000円を季毎の月に3ヶ月分を徴求します。
- ・初心者や小学生はスポーツ保険を強く推奨しています。
- ・初心者教室では会費を別途定め家族会員は開始後割引があります。
- ・会費は季毎に会計報告がなされ使途は基本的に練習会場費50%設備費他経費50%の配分にあります。
- ・また教室運営は基本ボランティアで行われるため参加者より確認事項の確認書を徴求しています。

運営方針	何よりも身体の安全を重視した運営	
	ハラスメントを排除した運営	
	透明性のある運営が総意結集の中で行われています。	

Playlist

きっとうまくいく

当競技のアピールポイント

- ・この競技は見ているよりやってみると楽しいことに気づき夢中になる人が多くいます。
この楽しさ面白さを文章では伝えられないのが残念です。
- ・初期投資に不安な方も多いのですが、スタート時期は剣道と比較してもあまり変わりません
剣道や他の格闘技と同じように継続していくコストははるかに低く
用具さえ揃えば週一回でも月二回でも自分の生活ベースで長く続けていけます。
- ・マイナーなため周囲の関心は高く経験があるだけで個の自分に興味を持つてもらえます。
- ・強い人は強いのですが相手のミスでヒットポイント(得点)をとれることもよくあります。
- ・中腰で行うことから足腰特に大腿筋など脚部を意識しないで鍛えられます。
- ・種目は三種目あり似たようで各種目全然違う面白さがあります。
- ・もしこのパンフレットを読まれた方が鎌倉市民なら迷わず検討されることをお勧めします。
子供たちと同じように小さな勇気や関心で全く違う自分の未来をつくれるのでですから